

令和5年度 福岡県相談支援従事者初任者研修

研修テキスト
(5日目)

演習様式

A日程：10/18(水)

B日程：10/24(火)

一般財団法人 保健福祉振興財団

目次

日 程	科 目	頁
5日 目	サービス等利用計画（演習5）	1
	週間計画書	2
	【メモ用】事業者への聴き取り（照会シート）	3
	モニタリング報告書（継続サービス利用支援）	4
	再アセスメントシート	5
	グループ討議（演習7）	6
	グループ討議の方法	7
	演習8 実践研究 事例の共有と相互評価Ⅰ 振り返りシート（記入例）	8
	演習8 実践研究 事例の共有と相互評価Ⅰ 振り返りシート（実習②の提出課題）	9

サービス等利用計画（演習5）

班

利用者氏名(児童氏名)	九州 太郎	障害支援区分	区分3	相談支援事業者名	架空の相談支援事業所
障害福祉サービス受給者証番号				計画作成担当者	ふじの こういち
地域相談支援受給者証番号		通所受給者証番号			

計画案作成日		モニタリング期間(開始年月)		利用者同意署名欄	
--------	--	----------------	--	----------	--

利用者及びその家族の生活に対する意向 (希望する生活)	【本人】 スマートフォンを使ってメールを送れるようになりたい。 作業所でお菓子作りを継続してがんばりたい。 【姉】 本人らしく生活してほしい。 お金の管理はある程度自分でできるようになってほしい。				
総合的な援助の方針	一人暮らしを続けながら、作業所でお菓子作りを継続できるように支援をします。健康な体を維持できるように、ヘルパーさんと一緒に調理を行って料理のレパートリーを増やしていきましょう。また、趣味に使うお金を増やせるように貯金を始めて行きましょう。緊急時や友人との交流をさらに円滑にするために、メールを送信できるように練習を行っていきましょう。				
長期目標	緊急事態や災害があった時に慌てずに対応できるように、インターネットから情報を集める方法や緊急時に通報ができる方法を身につけます。				
短期目標	ホームヘルパーの方と一緒に調理をしながら、健康面に配慮したバランスの良い食事が取れる方法を身につけます。生活に必要なお金の流れを把握して、計画的に使える方法を身につけます。				

優先順位	解決すべき課題 (本人のニーズ)	支援目標	達成時期	福祉サービス等 種類・内容・量(頻度・時間)	課題解決のための 本人の役割	評価時期	その他留意事項
1	健康な体で作業や生活が継続できるようにしたい。	健康に良い食事や運動を取り入れて、健康に気遣った生活が送れるようになる。	12ヶ月	居宅介護事業所 家事援助(週2回1回2時間)	ヘルパーさんと献立内容を確認して買い物をしましょう。調理した内容をメモに書いて実践してみましょう。	3ヶ月	太郎さんがメモに書き留められるように、事前に調理する内容や使う食材を確認してください。調理終了後は書き留めている内容が合っているのかその都度確認をお願いします。
2	ファックスを使った意思疎通からスマートフォンを使ったメール送信ができるようになりたい。	スマートフォンを利用してメールを送信したり検索ができるようになる。	6ヶ月	パソコンボランティア(週1回 1時間) ・スマートフォンの操作方法を学ぶ 就労継続支援事業所(適宜) ・事業所との連絡をメール送信に切り替えて練習をする。	スマートフォンの操作を覚えたことを実践しましょう。作業所の職員へメールを定期的に送信しましょう。	3ヶ月	B型事業所の職員の方とのメールの送受信をして、操作方法の復習が必要な部分があれば、パソコンボランティアの方へ報告をお願いします。
3	趣味に使えるお金を増やしたい。	生活に必要なお金と趣味に使えるお金の金額を把握して、計画的に使えるようになる。	6ヶ月	相談支援専門員(適宜) ・全体にかかるお金を一緒に計算する。 就労継続支援事業所(適宜) ・生活費で困っていることがあるときに相談をする。 居宅介護事業所(適宜) ・調理に必要な食材に対して予算に合わせた食材購入と一緒に考える。	出納帳に使った金額を記録する。 お金のことで困ったことがあれば相談をする。	3ヶ月	本人がお金のことでわからない部分があれば相談支援専門員へ共有してください。
4	今のお菓子の仕事を続けたい。	健康面にも配慮しながら好きなお菓子作り作業を継続できるように支援します。	12ヶ月	就労継続支援事業所 -8日／月	作業手順等をメモに取って、支援員の方と作業の相互確認ができるようにしましょう。	6か月	体調不良等で気になることがあれば相談支援

週間計画書

利用者氏名	九州太郎	障害程度区分	区分3	相談支援事業者名	架空の相談支援事業所
				計画作成担当者	ふじの こういち

	月	火	水	木	金	土	日	主な日常生活上の活動
6:00	起床・朝食	起床・朝食	起床・朝食	起床・朝食	起床・朝食	起床・朝食		平日や休日は関係なく生活リズムはほぼ同様である。 内科主治医から糖分の多い食事を控えるように言われており、本人も実行している。
8:00	出勤	出勤	出勤	出勤	出勤	出勤		
10:00								
12:00	就労継続支援事業所	就労継続支援事業所	就労継続支援事業所	就労継続支援事業所	就労継続支援事業所	就労継続支援事業所 土曜日は月に2回程度利用		
14:00								
16:00								スマートフォンを持っていますが、文字を送信することは難しいため、何かあるときは電話をすることがあります。
18:00	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	
20:00	入浴	入浴	入浴	入浴	入浴	入浴	入浴	
22:00	TV・読書など	TV・読書など	TV・読書など	TV・読書など	TV・読書など	TV・読書など	TV・読書など	
0:00	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	
2:00								週単位以外のサービス パソコンボランティア 内科受診 休日は市内や市外まで外出して、買い物やイベント(祭りなど)があれば着物を着て遊びに言っている。
4:00								

【メモ用】 事業者への聴き取り (照会シート)

利用者名	九州 太郎
------	-------

これはあくまでメモ用紙です。

総合的な援助方針

一人暮らしを続けながら、作業所でお菓子作りを継続できるように支援をします。健康な体を維持できるように、ヘルパーさんと一緒に調理を行って料理のレパートリーを増やしていきましょう。また、趣味に使うお金を増やせるように貯金を始めていきましょう。緊急時や友人との交流をさらに円滑にするために、メールを送信できるように練習を行っていきましょう。

	支援目標	事業所名・担当者	サービス提供状況	気になること・課題点など
1	健康な体で作業や生活が継続できるようにしたい。	訪問介護事業所		
2	ファックスを使った意思疎通からスマートフォンを使ったメール送信ができるようになりたい。	パソコンボランティア 就労継続支援事業所		
3	趣味に使えるお金を増やしたい。	相談支援専門員 就労継続支援事業所 ヘルパー事業所		
4	今のお菓子の仕事を続けたい。	就労継続支援事業所		

【ご本人との面接による聴き取り】

(本人)

(姉)

モニタリング報告書(継続サービス利用支援)

利用者氏名	九州太郎	障害支援区分	区分3	相談支援事業者名	架空の相談支援事業所
総合的な援助の方針			全体の状況		
お母さまが亡くなって不安なところがいっぱいありますが、一人暮らしが続けられるように支援をします。家のことはヘルパーさんと掃除などを一緒にやってみてできることを増やしていきますよ。お仕事は、一郎さんに合う仕事が見つかるように、色々な作業を経験してみましょう。不安なことやイライラしたことがあったら、相談支援センターの人や就労B型事業所の方に相談しましょう。					

優先順位	支援目標	達成時期	サービス提供状況 (事業者からの聞き取り)	本人の感想・満足度	支援目標の達成度 (ニーズの充足度)	今後の課題・解決方法	計画変更の必要性			その他留意事項
							サービス種類の変更	サービス量の変更	週間計画の変更	
1	健康な体で作業や生活が継続できるようにしたい。	12か月								
2	ファックスを使った意思疎通からスマートフォンを使ったメール送信ができるようになりたい。	6か月								
3	趣味に使えるお金を増やしたい。	6か月								
4	今のお菓子の仕事を続けたい。	12か月								

再アセスメントシート

	記入例	再アセスメントポイント①	再アセスメントポイント②	再アセスメントポイント③
①見直しが必要な部分はないか(課題・新ニーズ)	(例)ヘルパー支援に入ってほしいといわれていてプランに入れてみたが、キャンセルが続いていて、うまく活用できていない。			
②その状況を生んでいる理由は何か	(例)もともと他人に気を遣う性格で、今回も自転車を通ってくるヘルパーさんがかわいそうだという理由だった。また、自身の食事の見直しが必要という認識が低いこともわかった。			
③どうなることを目指しているのか(本人の想いを再確認)	(例)糖尿病が悪化しない食生活の実現。そのためにはご本人の意識改革と、身体障がいにより調理できない部分の調理や買い物サポート。			
④そのためのサービスは何を変更するといいか	(例)他者の支援にな慣れる第一歩として、まずは生活介護(通所)の利用により食事の支援を受けたり入浴支援を受けることを提案してみる。ヘルパー利用は、それらが定着するのを待って再提案してみる。			
⑤新たなプランを作成するにあたり、どのような調整が必要か	(例)①ご本人に提案できる(管理栄養士のいる)生活介護事業所を探す、②事業所の見学や体験の調整、③利用意向が聞かれたらプラン案を作成する、④担当者会議を行い、新プランをスタートする。			

※どこに何を書くかは、重要ではありません。あくまで本シートは頭の整理をするためのツールです。

グループ討議（演習7）

班

理解が深まった点	難しかった点

グループ協議の方法

事例報告者		グループメンバー (事例提供者以外の参加者全員)
全体を通して、よい雰囲気づくりにとめる。		
1 準備 配布	・グループ人数配付資料を用意し、配布。 ・主にニーズ整理票を用いて報告する。	
2 報告セッション 報告(説明) 7分	・単なるシートの読み上げとならないよう、 端的に説明 する(「簡素なスケッチ」)。 ・報告内容は6点	・ 報告の間は発言しない (黙って聞く)。
3 質問セッション 質問 5分	・グループメンバーからの質問に 端的にテンポ良く答える (原則1問1答)。 ・質問された内容以上の回答や説明は 控える 。 ・わからないことは わからないと答えてよい (推測による回答は避ける)。	・実践例の要点、判断理由などの欲しい追加情報や不明点等について、 簡潔に質問 する(原則1問1答)。 ・提出意図に焦点を当て、自分なりの本人像の組み立てのために(意図、根拠をもって)質問。 ・ただし、 <u>質問の根拠は省略し</u> 、求めたい 内容のみ質問 する。 ・これまでの講義や演習1で提示された視点に沿って質問する。
4 ブレインストーミング <バズセッション> 本人像の共有 5分 討議	・このセッションでは発言・反応しない。 ・黙って聴き、出された発言 (本人像・アイデア等)を記録表に記載する。	・水平の立場で発言。他人の批判をしない。 ・積極的に発言する。 (自分の発言が少ないと感じたら、思ったことを口にしてみるとよい。) ・端的にテンポ良く発言する。 ・ 事例報告者のほうを向かず に発言する。 ・より具体的・創造的な発言がよい。
5 応答 今後の取り組み 講師コメントを含む 5分	・出された本人像やアイデア、解釈や意見に対し、応答する。 ・次回の課題に向け、次いつ会うか、どのようなかわわりをしてみようと思うか具体的に表明する。	ほかの人の良い着眼点やアイデアをさらに展開させたり、今まで提示されていない視点・ストレングスに転換してものことも効果的。

1事例あたり、22分

気づきがありましたか？

[illegible]

実践例を提出してみても自身の気づき、得られた新たな視点や知識
【例1】子どもさんの情報収集は保護者にしかできていなかった。成長の支援で色々な職種の方が関わっていると感じた。
【例2】一人暮らしをしたいというご本人の希望をどう実現するかについて話し合った。グループの皆さんが「家族がいなくて生活が簡単になる」「友達がいなくて家を訪ねてくれる」「等、本人のストレンuousが沢山挙げられる中で、失敗しないことに囚われている自分に気づいた。ご本人の挑戦したい気持ちを大切にしたい支援計画にしていきたいと思った。
実習2で行う取り組み（目標）
【例1】保健師などの役割や、連携支援のヒントを基幹センターに尋ねてみる。
【例2】一人暮らしの準備について、グループホームの利用をイメージしているが、グループホーム以外にご本人の自信につながるような資源がないか検討したい。
実習2の結果
【例1】今回未就学児の支援において、とても大事な情報が得られた。今回の取り組みにより、就学に向けた連携支援のイメージが広がった。
【例2】基幹相談支援センターに問い合わせた結果、私が働く地域には地域生活支援拠点が行っている「体験ルーム」があり、一日1500円で利用できることが分かった。自宅にいながら本人のペースで利用できる資源であり有用であると思った。6・7日目のグループワークで共有し検討していきたい。

トシ返り振 I 価値相互と共有事例 実践研究 8 習演

[illegible]